



# 栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校  
令和2年度1月号  
令和3年1月7日

## 夢七訓

～幸福は夢からはじまる～

校長 今泉 正之

明けましておめでとうございます。東北や北陸では大雪となっていましたが、自分の住む埼玉県南東部は、風もなく穏やかな年明けとなりました。それでも、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、毎年初詣に行く寺院も甘酒などの飲食の提供はなく、人出も少ない中、元日の夕方に参拝しました。早々に参拝を終え、寺院近くの元荒川にかかる橋から見ると、富士が美しい姿を見せてくれ、その姿にも今年が良い年になることを願わざるを得ませんでした。始業式が行われる今日、首都圏の一都三県に緊急事態宣言が発出されるとの報道となっています。学校の臨時休業は行われまいとのことですが、今まで以上に注意して教育活動を行うとともに、内容に制限を加えることとなります。保護者の皆様にも十分御注意いただくとともに、生徒本人はもちろん、御家族の方に体調のすぐれない方がいる場合も登校を控えていただくこと、特に休日明けの登校日には入念な健康観察をし、少しでも心配がある場合は様子をみていただくようお願いいたします。

さて、今回は「夢」についてです。家で過ごすことの多かったこともあり、暮れから正月にかけて多くのテレビ番組を見ました。その中で、高校サッカー、ラグビー、駅伝などのスポーツ番組はもちろん、エンターテインメント番組でも、自分の夢をかなえた人たちの姿を見ることができ、多くの感動をいただきました。改めて「夢」を持つことの素晴らしさを感じることができました。この「夢」について、埼玉県が生んだ偉人、渋沢栄一は「夢七訓」をあらわしています。ほぼ同じ内容のものが幕末の思想家、吉田松陰の言葉にもありますが、今年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公、2024年度発行予定の新一万円札の肖像となる渋沢翁の言葉を下に紹介します。

渋沢栄一は 1840 年に現在の深谷市の豪農の家に生まれ、尊王攘夷運動の志士から幕臣、明治新政府の高官を経て実業家に転身し、日本初の銀行の設立など 500 社以上の設立に携わりました。また、幼少期に学んだ「論語」を基に、倫理と利益の両立を掲げ、経済の発展とその利益の社会還元を説き、平和を希求し国際交流活動や社会貢献活動にも尽力した人物で、ノーベル平和賞の候補にもなった人物です。彼は「夢七訓」で、幸福を求めるものは夢を持て。幸福は夢から始まると言います。夢を持つことで、自分の実現したい目標が見えてきて、目標を達成するための考えが浮かび、それに基づいて計画し、実行することで成果が出る。もちろん失敗しても、目標がはっきりしていれば、計画を考え直す。そして成果ができれば、幸福を感じることができる。すべてのスタートは「夢」だといいます。新しい年の初めに大人も子供も「夢」について考えたいものです。また、一日も早くコロナ禍が収束し、渋沢翁も好物だった煮ぼうとうを深谷で食べてみたいと思っています。

夢七訓  
夢なきものは理想なし  
理想なきものは信念なし  
信念なきものは計画なし  
計画なきものは実行なし  
実行なきものは成果なし  
成果なきものは幸福なし  
ゆえに幸福を求むる者は  
夢なかるべからず